

おうちで作成 ネットで申告



中学生の「税についての作文」 五島市教育長賞

「税で支える、誰かの明日」

五島市立 翁頭中学校

三年

山口 大誠

「税金ってなんのためにあるの？」

「そんな素朴な疑問を持っていた私は、税金について深く考えたことがありませんでした。ただ「大人が国に払うお金」というくらいイメージしかなかったです。けれど、学校の授業で税の仕組みを学んだことで、その考えは大きく変わりました。

私たちが毎日通っている学校の教室や教科書、安全に登校できるように整備された道路や火事や事故のときに駆けつけてくれる消防車や救急車など、それらの多くが税金によって支えられていると知りました。

さらに、病院や警察、公共交通機関など私たちの生活を快適で安全に保つサービスの多くも、税金によって成り立っていることが分かりました。

税金は、自分一人のためだけでなく、地域や社会全体を支えるために使われている。そんな仕組みを知ったとき、「税金って、ただのお金じゃないんだ」と思うようになりました。これは、皆で支え合って生きていくための大切な仕組みなのです。

一方で、ニュースなどでは「税金の無駄づかい」や「不正な使い方」が報道されることもあります。そうした話を聞くと、「自分が将来税金を払っても、それは本当に正しく使われるのだろうか」と不安を感じる人もいるかもしれません。でも、税金は必ずしも自

分に直接かえってくるものばかりではなく、高齢者の介護サービス、子育て支援や環境保護などが税金によって困っている人を支えたり将来のための投資として使われたりしています。

そう考えると、税金を納めることは「社会への参加」であり、「誰かの助けになる行動」だと言えます。私たち一人一人の納めた税は、どこかで誰かの生活を支え、未来をつくっている。そう思うと、税金はただ「取られる」ものではなく「託す」ものであると感じるようになりました。

将来、僕も働くようになったら、自分が納める税金がどんなふうに使われているか知って、社会の一員として責任をもって関わっていきたく思います。そして、「税金を通じて、誰かの役に立っている」と思いながら、納税できる大人になりたいです。